

平成21年公認会計士試験

合格体験記特集



南 吉彦
会計研究科 2年生

<具体的な勉強方法について>

私は大学院入学前からクレアールという受験予備校で会計士試験の勉強をしていました。会計研の授業が始まる4月からは、大学院と予備校のダブルスクールでした。会計研では会計士試験の範囲を学習する科目しか履修しませんでした。問題演習は予備校の答練を中心しつつ、会計研の授業で使っていた「演習管理会計」などの問題集も利用しました。

大学院の講義は、予備校の勉強でわかったつもりになっていたことをもう一度丁寧に復習し、理解を深めるという意識で受けていました。財務会計や管理会計や原価計算の講義は、論文式試験において特に役に立ちました。実務家の予備校講師とは異なり、学者先生の考え方で答案の書き方などのアドバイスをしていたので、自分の思考パターンの幅が広がったように感じています。本試験では初めて直面する問題を解かなければなりません。会計研の講義を通して応用力が身についたように思います。

<合格の決め手は？>

受験勉強において特に意識していた点は

- 1.合格することを最優先にして生活すること
- 2.正しい勉強方法を実践すること
- 3.自分の合格を信じることです。

受験勉強中は一日の時間の大半を試験のことを考えて生活していました。正しい勉強方法とは、「自分が試験合格にもっとも近づけることからやる」ということです。

論文式試験には傾斜配点があり、周りの受験生ができる論点を落とさないことが大事なので、ヤマをはらずに基本的な論点をまんべんなく、確実に正答できるようにすることを意識しました。そして、成績が伸びなくても「試験前日まで解けるようになればいい」という気持ちで、なるべく深刻に考えないようにしていました。

<会計大学院について>

会計大学院は会計士を目指している学生が多いので、同じ志を持った仲間がたくさん出会うことができました。講義のレベルが高く、先生方も熱心で、勉強に集中できる環境があると思います。

今後この環境を活用して自己研鑽に励みたいと思います。「会計プラス1」を身につけていきたいです。

会計研の先生方や事務所の方々、勉強のサポートをしてくださった方々には感謝しています。ありがとうございました。



富崎 勝成
会計研究科 2年生



会計士試験対策

会計研究科で公認会計士試験を目指している人の多くは大学と専門学校の両方に通っていると思います。何だかんだ言って、一番きつのが両者のバランスを上手く取って両立していくことではないかと思います。実際、大学院の授業が朝から夕方まであって、その後に専門学校の夜の答練を受けていた時は、肉体的にも精神的にもかなり苦しかったことを鮮明に覚えています。

ただ、公認会計士試験のような試験科目も多くかつ範囲の多い試験では、最後はやはり精神力がものをいうと思います。特に論文式試験は、真夏の8月に3日間で13時間も試験を受けなくてはなりません。これは、想像以上に過酷です。日頃からきつい思いをした分、本試験で最後まで戦い抜けたと今はそう思います。

あと、小ネタですが、自分で発見したオリジナルのゲン担ぎが意外と効きます(特に、短答式試験)。日頃の答練でいろいろ試してみてください。案外おもしろいですよ。内容はあんまり他人には教えない方がいいかも……。

勉強方法

勉強方法は人それぞれあると思いますが、僕はとにかく『がむしゃらに』答練を受け続けました。点数が悪かるうがとにかく全部受けることが肝要だと思います。ですが、一つ難点があってこれを実行しようとする、めっちゃめっちゃしんどいです。7月とかは、論文答練を全科目消化するには、毎日受け続ける必要があります。まあ、これの解決策としては、本当に嫌になったら勉強忘れて遊びましょう。実際、本当に答練受けたくない時は、会計研の同じクラスの仲間とよく飲みに行っていました(ただ、サポートは後でちゃんとフォローすることをお忘れなく)。勉強の合間に上手く遊ぶのも『勉強方法』なんじゃないかなと思います。

最後に

見た人もいるかとは思いますが、NHKのドラマ「監査法人」の中で、会計士である主人公がバーのマスターから「会計士になって、地位と名誉と高給をすべて手にしたのに」と言われるシーンがあります。

悲しいかな現時点では何一つとして得ていません。ただ、会計士試験を通じて思ったのが、会計研究科でも専門学校でも多くの仲間恵まれたということです。同じ志を持った者同士で、酒を飲みながら、時にくだらない馬鹿話をしたり、時に真面目に会計の話をしたりできる環境というのは本当に恵まれていると思います。

短答式試験で1度落ちた時に、本気で辞めようと思った時もありましたが、同じ境遇でも、努力する仲間の姿を見て、自分も負けてられないと思い頑張ってきたからこそ、今こうして合格という栄冠を勝ち取れたと感じています。

周りで支えてくれたすべての人に本当に感謝したいです。ありがとうございました。



石黒 良一
会計研究科3期生



何とか公認会計士試験に合格することができました。このように合格体験記を書かせていただくことになり、非常に嬉しく思うとともに、支えてくださった会計研究科の方々に御礼申し上げます。ありがとうございました。この体験記が皆様の参考となれば幸いです。

勉強方法

まず、計算系の科目については、主に専門学校の教科書の例題を繰り返し、演習問題を解くことで対応しました。間違えた箇所は、教科書にも書きとめて、気分が乗らないときには、教科書を読んだだけでもその部分を復習できるようにしました。

次に、理論系の科目については、主に会計研究科の授業を聴講することで対応しました。特に、財務会計論や原価計算の授業は、メモを多くとり、図を用いて、視覚的に理解するよう努めました。ワークアウトや専門学校の演習教材も積極的に用いて、アウトプットの練習をするとともに、受験上の重要性を把握するよう努めていました。また、法令基準集が配布される科目については、法令集を活用し、正しい用語を用いることを心がけるとともに、暗記に充てる時間を減らすようにしました。

会計研究科

会計研究科では、公認会計士試験に直結する授業を多く履修しましたが、テーマ研究やワークショップも積極的に履修しました。テーマ研究では、租税法の緻密さに苦戦しましたが、試験勉強があるなかで、先生のご厚意のもと、何とか書ききることができました。また、監査実務ワークショップでは、監査の厳しさ、監査人の責任の重さを、文献を調べて授業を聴講することで感じることができました。このような勉強を通し、自分で考える前提としての基礎知識の習熟も、より意識して受験勉強するようになりました。

最後に

私は、学部生の時から受験していましたが、大学院の1年次に短答式試験に1点差で不合格となり、非常に辛い思いをしました。一度は就職活動を始めましたが、翌年の2月に、再び試験勉強に専念する決断をしました。そして、2年次の短答式試験合格および会計学・監査論・企業法の科目合格を経て、卒業後に最終合格することができました。

ここまで勉強を継続し、合格できたのは、学部ゼミ時代から見守ってくださった川村先生、何度も励ましてくださった大学院クラス担任の奥山先生を始め、素晴らしい先生方に出会うことができたからだと思います。本当にありがとうございます。

また、自習室の仲間にもお世話になりました。何も分かっていない自分に、電車内や駅のホームで未明まで教えてくれた人もいました。卒業後、数ヶ月間受験に専念をしている間も、仲間と切磋琢磨することで、何とか合格することができました。感謝しています。



服部 敦
会計研究科4期生



2007年の短答式試験に合格してから、3回の論文式試験の受験を経て、やっと合格できました。1回目は租税法と経営学を欠席し、2回目では企業法のみ科目合格でした。3回目の合格発表の官報で名前を発見した瞬間は、安堵感から力が一気に抜けました。うれしいという気持ちよりもホッとする気持ちのほうが強いと思います（逆に短答試験はものすごくうれしかったです）。

合格体験記ということなので、どのようにすれば早く合格できるか、という観点から書きたいのですが、私自身が長くかかったためよくわかりません。短答試験がとても重要ということだけは言えると思います。短答試験に合格するためには、論文よりも広い理論の知識と絶対的な計算力が要求されるためです。最近の短答試験は難しくなっていると思うので、この関門を突破した会計研生でしたら、論文合格は目前だと思います。かといって、短答に特化して論文を捨ててしまうのは得策ではありません。

私の経験上、短答を免除したその年は逆に成績が落ちてしまう人が多い気がします。免除ということからの油断から、せっかく身に付けた細かい理論の知識や精緻化されていた計算力が、時間の経過とともに欠落してしまったのかもしれません。短答に合格したその勢いで論文も突破したいです。短答から論

文試験まで一発で合格する割合は、短答免除者よりも若干高かったです。

私の場合、短答試験はすんなりと通過したのですが、論文では苦戦しました。拍子抜けしてしまって、弟とモンハンしたり友人と遊び呆けていたからだと思います。会計士試験は気力との勝負だと痛感しました。やる気の維持に関しては何も書くことがありません。今でもわからないです。だんだんと会計士になるのが目的ではなくて、試験に合格することが目的になってしまい、やる気に急ブレーキがかかる人も多いと感じます。リフレッシュに飲み会などに参加するのは良いです。ただ、付き合いはほどほどにしないと、周りのがんばっている友人から冷めた目で見られるかもしれません。私がそうでした。

かなりの時間机に向かっているのに短答で不合格になってしまった、という人も多いと思います。そういう人は運が悪かっただけだと思います。勤が当たらず、残り1%でダメだった人はかなりの人数がいるはずですが、会計研は修了したら短答は企業法のみになるので、安心して論文対策ができます。在学中に合格できなかったからといって気に病むことはないと思います。ゆっくり勉強すればよいです。私も3年間かけてのんびり勉強しました。唯一工夫したことは、問題集や答練を大量に集めてバラバラにして、項目別に分類したことくらいです。短答対策におすすめです。TACのアクセスコースは計算力の底上げに役に立つと感じました。監査論・企業法と財務理論はAXLの直対テキストを読んでいました。この3科目は武器になったと思います(点数開示の結果から判断)。

私が皆さんにお伝えしたいことは、勉強すれば必ず良い結果が返ってくるということです。周りの目から見て遊んでいる、と思われぬ程度に休憩して、心身ともに健康を維持して頑張ってください。1年生で合格できた人は、非常に優秀なので是非テーマ研究をとってください。私はテーマ研究をとれて充実した学生生活を送れました。

平成21年公認会計士試験に当研究科の在學生18名、修了生19名(計37名)が合格しました。(2009.12.18現在)

	論文式 (合格者 / 受験者 (合格率))	短答式 (受験者)
1年生	7 / 20 (35.0%)	74
2年生	11 / 29 (37.9%)	48
在學生合計	18 / 49 (36.7%)	122